

INFORMATION



■ ウィメンズカウンセリング松山開設20周年記念

信田さよ子さん（日本公認心理師協会会長）講演会

「なぜ人は自分を責めてしまうのか『自己肯定感』はまやかしてある」

日時：11月29日（土）13:30～15:30

会場：コムズ5F大会議室（松山市三番町6-4-20）

参加費：一般2000円（当日2500円） 学生1000円（当日1500円）

主催：ウィメンズカウンセリング松山（Tel 090-2825-2730）

■ 軍事研究を考える講演会

「わが国における軍事研究の問題をどう考えるか」小松正幸さん（元愛媛大学学長）

日時：11月29日（土）14:00～16:00

会場：愛媛県教育会館第1会議室（松山市北持田町131-1） 参加無料

主催：「軍事研究を考える愛媛の会」設立呼びかけ人

連絡先：小淵港さん（Tel 090-5142-4776） 村田武さん（Tel 090-9580-2640）

■ ウリハッキョ映画祭 in 四国—私たちの虹—

11月29日（土）愛媛県男女共同参画センター（松山市山越町450）

15:30～開幕式 15:45～「ニジノキセキ」 18:30～開幕コンサート

11月30日（日）愛媛県教育会館（松山市北持田町131-1）

10:50「ウリハッキョ」 13:45「かぼ」 16:15「声よ集まれ」

18:00 トークイベント「ここに四国ハッキョがある」

チケット：映画1作品につき1000円、コンサート2000円、2日間フリーパス5000円

主催：「ウリハッキョ映画祭 in 四国」実行委員会 urihakkyoeigasai@gmail.com

■ 福島みずほさんと語ろう！ いま、国会はどうなっているの？

日時：11月30日（日）13:30～15:30

会場：コムズ3F視聴覚室

主催：「福島みずほさんと語ろう会」呼びかけ人

連絡先：生き活き政治ネット（Tel 089-924-2485） 参加無料

■ 松山空港の軍事利用、どうなる？

「松山空港が特定利用空港の候補に 反対の声を上げるのは、今」

内容：経過報告、問題提起、今後の取り組み

資料代：500円

日時：12月7日（日）13:30～16:30

会場：松山市民会館第4会議室（松山市堀之内）

主催：ノーモア沖縄戦・えひめの会（Tel 090-3783-8332 阿部さん）

■ 第24回12・8不戦のつどい

日時：12月8日（月）14:00～16:00

場所：松山市子規記念博物館 視聴覚室（松山市道後公園1-30） 資料代：300円

講演：「戦後80年新しい戦前がやってきた—歴史を学び、繰り返さない力を—」

岡村啓佐さん（平和資料館・草の家〔高知市〕副館長）

共催：松山市平和資料館をつくる市民の会 えひめ母親大会連絡会 ほか

連絡先：taoreiko@yahoo.co.jp

■ 「伊方原発このまま廃炉!!」伊方原発現地集会

日時：12月20日（日）10:00～

場所：伊方原発ゲート前 集会後、伊方町九町で街宣行動

主催：伊方から原発をなくす会（Tel 090-4472-4862 秦さん）

武井事務所は月曜から金曜の10時～16時に開けています。お気軽にお立ち寄りください。



生き活き政治ネット

松山市衣山2-4-47、2F

TEL/FAX 089-924-2485

ikiiki@cnc.e-catv.ne.jp

2025年11月15日発行

「みんなで語ろう 私の気候危機」ミーティングを企画して

生き活き政治ネット主催で9月23日午後の2時間ほど、コムズの会議室を借りて、「気候アクションウィーク2025とめよう温暖化 ミライへの種まき」協賛イベントとして10人ほどのミーティングを行いました。「ディープアダプテーション（深い？適応策）」の図（上半分）を参考にして、一人ひとりの経験、思いを共有できる場を作って、その中から将来にはコミュニティとして対応策（適応や緩和の対策）に取り組めるような雰囲気づくりができれば良いな、と思っていました。

案内のチラシに「各々の話題を持ち寄ってください」と書いておきましたので、順番にマイクを回し、参加者からの話に対して自分の経験、思っていることをみんなでコメントを付けるという形にしました。

漁獲高の減少が瀬戸内海で起きている、という環瀬戸内海会議の本を紹介する人、この夏初めて家にエアコンを付けたという人、熱中症対策としての気候変動適応法の改正でクールスポット対策、人間が暑さに耐えられる温度は湿球温度の3.5℃程度という話、資料として持ってきていた本を読んで「温暖化懐疑論」の友人への説得材料は何だろうという相談へも時間をとり、話題はあちこちへ飛びながら、社会実験的なベーシックインカムやコモン（共有財産）的な住まい作りの話題も出たりして、やっぱり原因は資本主義よねえ、という結論に落ち着いたようです。

最後に自分のところにマイクが回ってきた時には時間もなく、自分の恐れや感情をみんなに聞いてもらうことは出来なかったのがちょっと悔やまれる失敗でした。（小倉 正）



ディープアダプテーションの概念

武井たか子の新春県議会報告会のご案内

日時 2026年1月12日（月、祝日）13:30～15:30

会場 コムズ（松山市男女共同参画推進センター）3F 視聴覚室
（松山市三番町6-4-20）

愛媛県政について皆さまのお声を聞かせてください。

2026年度の予算要望に反映させていただきます。

第2部 県立図書館について考える

報告「全国図書館大会に参加して」（奥田恭子、渡邊桂子）

どうぞお気軽にお越しください。

ご参加をお待ちしています。（参加無料）



陸上自衛隊松山駐屯地創立70周年記念行事の見学記



隣町の自衛隊はいったいどうなっているのか、初めて半日見学に出かけました。見学者は子どもは乳幼児から小中学生、親や祖父母同伴の家族連れが目立ちました。要人挨拶、音楽隊の演奏、高校生の書道パフォーマンス、自衛隊体操です。自衛隊イベントに高校生を巻き込むなという市民の抗議は聞き入れられませんでした。

とうとう模擬戦闘訓練が始まりました。ゲリラを捕まえる戦闘シーンからドラマ仕立てで始まり、次々に戦闘車が登場しそれぞれ解説も入ります。私は戦闘車の名称や使い方などはさっぱりわからず、黒く恐ろしい物体としか見えません。空にも黒いヘリが飛び交います。最大の盛り上がりは火を噴く榴弾砲です。「音に注意！」というアナウンスが入り、慌てて耳をふさがねばなりません。たびごとに歓声が上がりますが、子どもたちは大泣きで、騒然としていました。私はそんな見物客に違和感がつよくなるばかりです。

世界中で起きている戦争という暴力という現実とこの模擬戦とやらが重なり、頭の中が爆発しそうになったのかもしれない。飲食コーナーに交じって、子ども向けの自衛隊ふれあうブースがあります。全編「カッコイイ、スゴイ、自衛隊サンアリガトウ」の世界で、午後からは格闘ショーなどもあったようですが、午前中で退散。

数日後、私たちは横須賀基地でトランプと登壇し、拳を振り上げはしゃぐ高市早苗総理の映像を見ることとなりました。

(こぶちあけみ 久米9条の会)



イタリア・ドイツ スタディツアーに参加して ①

村田武先生主催のツアーに今年も参加した(9月20日~9月29日)。去年は清水の舞台(高さ13m)から飛び降りる気持ちで、円安の今年はスカイツリー(634m)から変わり、更にミラノまでのチケットを独自手配し現地で合流するという冒険まで加わって、スリリングな旅の幕開けとなった。

イタリアの空は澄み渡り、行くところ見るもの全てにビザンチン文化(?)の香りが漂い、ワインと料理は美味しくなるはずが、(もちろん期待は裏切られなかったが)ガイドさんの、「ここは観光客が最も狙われるところ。話しかけられても相手にしない。荷物はしっかり守って。写真を撮っている時にも気を抜かないで。」という警句に、目立たずなるべく大金持ちに見えないように気を配りながら(笑)町歩きをした。

ところがイタリアで誰一人被害に遭わなかったのに、ドイツで同行の人が怪しげな男性に物乞いをされ、追い払ったと思った際にパスポートを抜き取られ、「俺が拾った。金寄せ。」(多分)と詰め寄られたのだから、皮肉なもの。毅然とした態度とこちらがグループだったことでパスポートは取り戻せたが、海外旅行の危うさを感じ取った一瞬だった。

イタリアでは農家民宿も視察した。稲作(陸稲)、畜産(豚・牛)、野菜作り、レストラン経営、結婚式場など、多角的な取り組みを生き活きと語るオーナーの顔は誇らしげだった。話を聞いた素敵な会場も元は納屋だったところを改装したとのこと。未来志向の話に圧倒された。そして広大な敷地と自然に囲まれた場所で美味しい物を食べて鋭気を養うイタリアの人々の姿を想像し、決して贅沢ではないけどとても豊かな暮らしぶりを羨ましく思った。

(渡邊 桂子)



ヴェッキオ橋(イタリア・フィレンツェ)

映画「ヒポクラテスの盲点」を観て

このドキュメンタリー映画は、新型コロナワクチンと言われる「mRNA脂質ナノ粒子遺伝子製剤」接種についての科学的問題提起と現在の社会のありようが映し出されていた。

科学的問題提起では、厚労省・PMDA(独立行政法人医薬品医療機器総合機構)が2021年2月にファイザー社に脂質ナノ粒子の体内分布範囲を問い合わせ、全身に分布していることを把握しながら、接種部位にとどまり数日でなくなると私たちに広報していたことだ。スパイクたんぱく質の遺伝子情報が入っている脂質ナノ粒子、細胞に侵入し細胞にスパイクたんぱく質が作られる。それが全身に分布することになる。他にも、接種回数が多くなればIgG4抗体が誘導され自己免疫が弱まり、感染症などになりやすくなること。年齢調整死亡率・超過死亡数はワクチン接種が始まった2021年以降増加し続けていること。死因として、血管系障害、心臓障害が大半であること。心筋融解の事例もあった。副反応疑い報告では、重篤例9325件(2024年8月4日時点)、死亡2295件(2025年3月31日時点)。健康被害救済申請では死亡認定1035名(2025年9月11日時点)であることが知らされた。

社会のありようについては、分子生物学者が、医療・医学の世界は権威に従順で異議を言えない構造になっていると発言していた。それは一部のメディアを除く大方のメディアにも言えることではないか。また私たちの社会も同様ではないか。SNSで情報統制があったことを米議会で証言していた。異論・議論を封じ、人びとを思考停止させるために使われた善悪二項対立としての「反ワク・陰謀論」。同調圧力を背景とした政府広報「思いやりワクチン」。こういう状況の中で接種は行われた。異論がなく不安と恐怖を掻き立てるメディアの威力に恐怖した。全体主義体制が立ち現れたようだった。《科学の危機、医療の危機、民主主義の危機》である。

映画パンフレットに大西隼監督のポートレートがある。道路の「止まれ」表示の横に彼は立っている。この映画を契機に実態把握と検証が進むことを期待したい。

エンディングで福島雅典医師が語る《利益とリスクなんて言えないだろう》が心に突き刺さる。副作用に苦しむ一人ひとり、2295人の亡くなられた一人ひとり、これ以外に顕在化されていない一人ひとりに対してそう言えるのか。《元氣な時に戻してほしい》という声が消えない。

(谷口 博徳)

※「ヒポクラテスの盲点」監督・編集：大西隼

制作・配給 テレビマンユニオン(2025年 秋公開)

本を紹介 『出産するという体験』(吉村典子著・創風社出版刊 定価2200円)

いつ どのように—私のお産のために知っておきたい身体のカ

女性たちは事実として、「出産をする」という自主機能を持つ身体をもっています。しかし多くの妊産婦は、自身の身体が分娩を進める順序や分娩の成就までを明確にイメージできるほど具体的な知識を持っていません。本書は、著者自身の散々な目に遭った第1子のお産と、助産婦一人の確かな判断と介助によって、思いがけず楽々と第2子を産み落とした両体験を通して、「自分の身体はどのように子どもを産み落とすのか」を充分に知り、妊産婦たちに納得のいくお産をして欲しいとの願いから上梓されました。

同時に、瀬戸内の産婦たちの、縁者や周囲の人々に支えられた民俗誌や、イギリスの「妊産婦ファースト」の福祉制度も紹介、産前・産後を送りやすい支援体制を整える必要を説いています。

出産の主人公は、妊産婦本人。これから出産に臨む人たちにエールを贈る一冊です。「出産は、あなたの子宮に宿った赤ちゃんの卵を、トツキトオカ(十月十日 平均266日)かけて一人前に育てた後、陣痛を起こして産み落とす生理現象です。どんな素晴らしい産む能力が備わっているか、特にはじめてお産する皆さん! 楽しみに読んでくださいね。(著者より)」

